

## マトラ・ターミナル、カテンベ・ターミナル及び南部鉄道路線のインフラ開発動向

## 1. 案件概要と進捗状況

## (1) マトラ・ターミナル

マトラ・ターミナルは、マプト港の一部として、マプト港開発会社（Maputo Port Development Company: MPDC）によって運営されている。マトラ・ターミナルは、さらに、(1) マトラ石炭ターミナル（TCM）、(2) アルミニウム・ターミナル、(3) 食糧ターミナルに区分されている。アルミニウム・ターミナルは、モザール・アルミニウム製錬会社が直接運営しており、TCM は、南アフリカの Grindrod が運営している。食糧ターミナルは、民間会社の STEMA が運営している。現在のマトラ・ターミナルの面積は、123.4ha である。

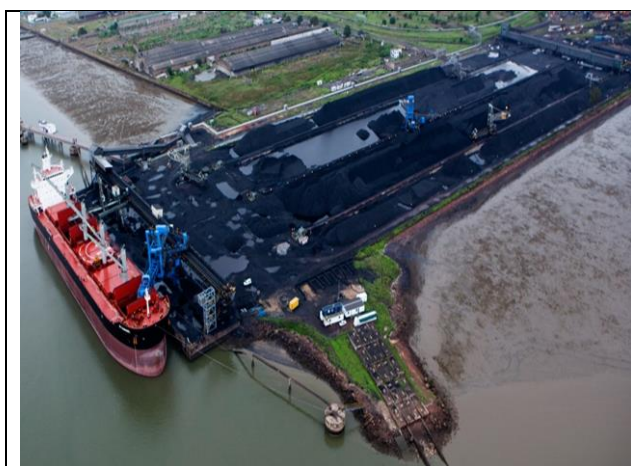
TCM は、南アフリカで産出される石炭と磁鉄鉱（Magnetite）を取り扱っており、現在、7.5 百万トン/年の処理能力を有している。従来は主として石炭の輸出を取り扱っていたが、近年の石炭価格の低迷のため、石炭の取扱量は落ち込み、現在は、TCM の全貨物量の 25% となっている。南アフリカの Witbank の炭鉱から鉄道で石炭が輸送されており、主としてインドに出荷されている。

磁鉄鉱は、TCM における 75% の取扱量となっており、主として中国、日本、モリシャスなどに輸出されている。2015 年 9 月には、4~6 船の磁鉄鉱の出荷を予定している。現在は、60 ワゴンの車両が、南アフリカから磁鉄鉱を輸送している。TCM に到着した磁鉄鉱は、コンベイヤーによって処理され、船舶に運搬されている。TCM のストックパイルの占有率は、60-70% となっている。

現在、TCM では 1 埠頭（Single Berth）のみ操業している。TCM に隣接しているのが、燃料埠頭であり、石油公社の Petromoc によって運営されている。



図1・マプト港の概要



TCM の外観



磁鉄鉱を運搬するワゴンと切替施設



TCM のコンベイヤー施設



TCM のコンベイヤー施設と埠頭

## (2) 南部の鉄道網

マプト港から南アフリカのレサーノ・ガルシア国境までのレサーノ・ガルシア路線は、国営企業のモザンビーク鉄道公社（CFM）が運営しており、国境からヨハネスブルク首都圏、リンポボ州、ムプマランガ州の鉄道網は、Spoornet が運営している。現在、レサーノ・ガルシア路線の主たる貨物は、石炭・磁鉄鉱であるが、ダーバン港の混雑から、レサーノ・ガルシア路線及びマプト港を利用することを検討している物流業者が増えてきている。マプト港は、スワジランドを結ぶゴア路線、ガザ州とジンバブエを結ぶリンポボ路線とも接続されている。貨物量は、レサーノ・ガルシア路線が最も多く、次いでゴア路線、リンポボ路線と続いている。

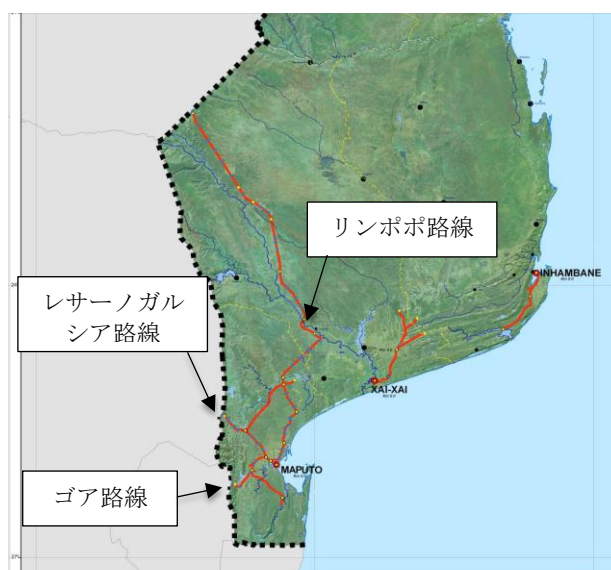


図 2 : 南部の鉄道路線の概要

## 2. 今後の開発計画

### (1) マトラ石炭ターミナル（TCM）

マプト港マスタープランに基づいて、TCM では、現在まで様々なリハビリ・拡張事業を実施している。現在まで、Phase 3 のリハビリ事業が実施された。また、航路浚渫事業を計画しており、水深が 14m まで増加する予定である。

図 3 の青色部分が TCM の拡張部分である。第 2 埠頭を新設し、石炭・磁鉄鉱のストックパイルを拡張することが計画されている。この拡張計画により、TCM の取扱量は、現在の 7.5 百万トンから 2020 年には 20 百万トンに増加することになる。港湾マスタープランによると、TCM の拡張事業には、総額 834 百万ドルを投じることが計画されている。開発資金は、Grindrod と MPDC 関連企業から賄われる。

燃料ターミナルの再配置と拡張計画も計画されている（図 3 の黄色部分）。



図 3 : TCM と燃料ターミナルの拡張計画

(2) カテンベ・ターミナルの新設  
 マプトの対岸のカテンベでは、セメントターミナルの建設が計画されている。中国系の CIF/MOZ セメント会社は、マプト州 Matutuine 郡において 150 万トン/年規模のセメント工場を建設しており、このセメント工場から産出されるセメントを取り扱うことが計画されている。

### (3) 南部鉄道網の開発計画

マプト港の拡張計画とともに、レサーノ・ガルシア路線の複線化が計画されている。石炭・磁鉄鉱の車両も現在の 60 ワゴンから 75 ワゴンに増加することが計画されている。ボアネに新設される橋梁建設と信号システムに関する調査は、現在実施中とのことである。鉄道の ICT システムは、現在のアナログ通信から中央管制ができる ICT 信号システムに移行することが計画されている。機関車やワゴンなどの車両の整備も計画されており、中国から 70 台の機関車を購入する予定とのことである。

また、マプト州南部の Techobanine において、新設の港湾を建設して、新港まで鉄道を敷設することが計画されている。

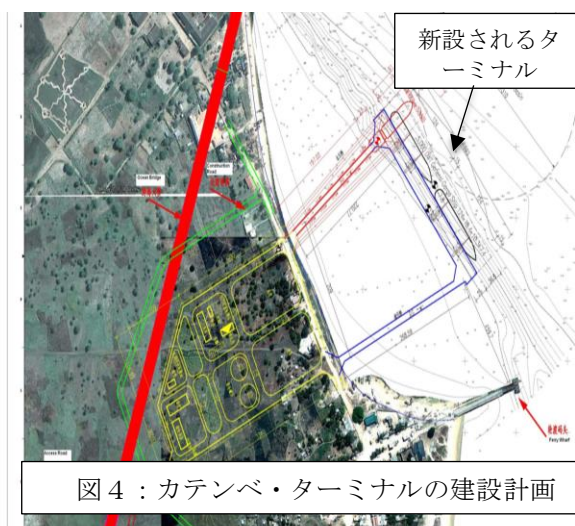


図 4 : カテンベ・ターミナルの建設計画

表 1 : モザンビーク南部の鉄道路線の開発計画

路線等	開発計画
レサーノガルシア路線	Rehabilitation of the railroad and bridges
	Rehabilitation of railway and artwork
	Rehabilitation and modernization of the telecommunication system
	Implementation of new signaling system
ゴバ路線	Rehabilitation and capacity expansion increase of the Goba and Salamanga Line - Construction of new railway bridge over the Umbeluzi River in Boane
機材等	Rehabilitation of workshop facilities of CFM - South
	Acquisition of rolling stock (Locomotives, wagons, passenger coaches)
Techobanine 統合開発計画	Development of the integrated project of the Port of Techobanine, including the railway line and industrial development area

出所：CFM

### 3. 日本企業の参加機会

マトラ・ターミナル及びカテンベ・ターミナルでは、港湾リハビリ・拡張事業が計画されており、「Port Authority」である MPDC の主導によって着々と実施されている。現在計画されている港湾領域以外においても、MPDC の管轄領域においては、港湾を拡張する可能性がある。MPDC では、日本の港湾インフラ技術及び質の良い設備に対する期待はあり、MPDC から、関心のある日本企業への港湾視察が示唆された。

今後、日本企業からなる港湾視察を通して、マトラ・ターミナル及びカテンベ・ターミナルに関する情報を提供し、インフラ整備及び機材提供における機会を提供することが検討される。さらに、マトラ・ターミナル及びカテンベ・ターミナルの拡張計画及びさらなる管轄領域の開発の可能性から、日本企業がマプト港を利用することが考えられる。MPDC の開発計画と歩調を合わせて、港湾利用を進めていくことが検討される。

南部の鉄道路線においても、マプト港の拡張計画と並んで様々なインフラ整備及び機材調達が計画されている。車両や信号システムなどにおいては、日本の技術が活用される可能性が考えられることから、マプト港の視察時において、南部路線を運営している CFM を訪問し、日本企業の参加の機会を提供することが考えられる。

### 4. 担当窓口

組織	担当者名	連絡先	備考
MPDC	Mark Flynn	+258 21 720350 E-mail: markf@grindrod.co.mz	マトラターミナルの TCM の General Manager, Operation (Grindrod)
	Johann Botha	+258 21 340500 E-mail: Johann.botha@portmaputo.com	Director Commercial 開発事業の担当局長
	Soraia Abdula	+258- 21- 340500 Email: soraia.abdula@portmaputo.com	Communication & Image Manager MPDC へのアポ依頼の窓口。
CFM	Ilidio Matola	+258 82 5777038 E-mail: ilidio.matola@cfm.co.mz	Director, Strategic Planning and Business Development